

「おかあちゃん見ててね」

加須市立北川辺西小学校 五年
山 田 侑 杜

しゃげ、こんぶ、おかか、ツナマヨ、えび天、とり五目、梅干し……。「どれにしよかな。」

ぼくは、おにぎりが大好きです。塩味の付いた白いご飯を一口かじるとおいしさが口いっぱい広がります。白いご飯の中にサーモンピンクのしゃげが見えると「早く食べたい。」という気持ちになります。ご飯にさけフレークをかけて食べることもあります。おにぎりにして食べると一だんとおいしく感じるのが不思議です。

おにぎりは冷たくてもおいしいです。おにぎりは、日本人が考えた食べ物の中でもけっ作の一つだと思います。大昔から食べられていました。中身は梅干しでした。梅干しは薬や病気の予防として食べられていました。梅干しの入ったおにぎりは安心して食べられます。また、持ち運びも簡単です。だから、今でも食べられているのだと思います。

この梅干にまつわる大きな出来事が我が家でありました。「おかあちゃんの梅干し」が床下から出てきたのです。おばあちゃんの家の床下を掃除していたときのことでした。ビニールに包まれた重い物がありました。それは、ふたの付いた茶色のかめでした。白いすじがあり全体がつやつやしていました。ふたを開けてみるとおいがしてきました。梅干しのおいのです。梅干しはつぶされていたけどきれいでした。すっぱそうだと思います。

「おかあちゃんの梅干しだ。」

「すごい。いつつけたの。」

「何年前のだろう。」

「侑杜は生まれていないから、十年はたっているね。」

「今年の夏は暑いから、おかあちゃんが食べなさいと言っているのよ。」

おかあちゃんは、ぼくのひいおばあちゃんです。二年前になくなりました。物静かで優しい人でした。ご飯をいっしょに食べたときのことをよく覚えています。おかあちゃんも白いご飯、特にやわらかいご飯が大好きで、じゃこやふきみそ、いりどうふなどのおかずにおいしそうに食べていました。おかあちゃんは「ご飯が炊けてふたを開けるしゅん間の湯気とおいが好き。」

と言っていました。ぼくも湯気のとつ温かいご飯が好きです。ぼくのお母さんは、おかあちゃんといっしょに生活して大きくなりました。梅干しづくりも手伝いました。だから、かめの梅干しを見て昔を思い出したようです。

「すごいね。おかあちゃん。みんなのことを考えてくれたんだね。」

なくなってもまだおかあちゃんの力がはたらいているようです。おかあちゃんはすごい。

ぼくは正直、梅干しは苦手です。でも今夜は、大好きなほかほかの白いご飯にやさしかったおかあちゃん梅干しを一つのせて食べてみようと思います。おかあちゃん見ててね。